

祈りの絆

連盟の被災地支援に関する情報は、連盟ホームページをご覧ください。http://www.bapren.jp/

これまでの活動

*宮前仮設住宅支援

仙台北教会が活動を展開して一年。車で約1時間。月2回〜3回、お茶会を中心とした支援を継続中です。また、「あいあいプロジェクト」(女性連合)を通してアクリル毛糸の赤、ピンク、緑を集めていただき、宮前手芸サークルの「いちごたわし製作」を支援。さらに山元町の機織りグループの活動も支援しています。

*牡鹿支援

宮城チーム(仙台、南光台、吉岡、仙台北、大富教会)で支援。給分浜、鮎川、荻浜、牧浜、竹浜、月浦地区にある在宅と仮設142戸の支援を行っています。それぞれの教会から片道2時間半かけて、月一度出かけ、午前と午後、地域を分けての支援を継続中。お茶っ子を開催したり、野菜を配布しています。11月には仙台北教会を会場に、牧浜の漁師さんと宮城チーム共催で牡蠣祭りが開催され、交流会や焼き牡蠣の販売、牧浜の復興への取り組みの紹介等も行われます。



牡鹿半島支援



巨理町宮前仮設住宅支援

*安渡小学校仮設支援

安渡小学校は、震災直後より避難所になり連盟はここで炊き出し支援を行いました。その後、ここに仮設住宅が建てられ、当時から活動の中心を担われている盛岡教会が現在も月2回、片道3時間かけてお茶っ子支援を継続中。今年の夏にはテキサスのゴスペルチームが体育館でコンサートを開催され、仮設の方々には初めて聞くゴスペルをとっても喜んでくださいました。(次回は、野田村仮設。緑が丘仮設を紹介いたします。)

これからの活動

*大富教会・会堂修理費支援

大富教会は震災により、会堂や分級室等、いたるところの内装に亀裂がはいっていました。海外からの支援チームを受け入れ、その支援活



動のコーディネートや、牡鹿仮設支援に全力を注いでおり、なかなか会堂修理に手をいれることができないこの一年でした。この度、ようやく他の教会同様、連盟の被災地支援募金により、修理することができるようになりました。10月7日の伝道開始20周年記念礼拝に合つように会堂内壁修繕工事を完了させる予定です。

*募金のお願ひ

東日本大震災が起きて一年半。原発事故収束の見通しはなく、先の見えない不安は計り知れません。原発事故で避難されてきた方々が生活をしておられる緑が丘仮設住宅支援(郡山コスモス通り教会支援活動)で、「ふるさと」の歌をみんなで歌った時、「俺らのふるさととは、どんなん忘れてしまふ。ふるさとが遠くなつてしまふ」と、自治会長さんが言われた言葉に原発事故被災者の方々の思いが凝縮されているように思いました。津波被災地の方々も町の復興計画がまだ見えてきません。震災直後には辛抱できたことも、一年半の歳月が気力も体力も希望も小さくしてしまつていっているように思います。阪神、淡路大震災を振り返るとこの時期ぐらいいから自死、孤独死が増えていくと聞いています。現地での働きと皆様のお祈り、そして募金。この3つが一つとなって支援活動が被災地に届きます。皆様の祈りと募金は現地の諸教会、伝道所が被災地に確実に繋いでくださっています。長い支援活動が展開できますように。

(現地支援担当 金子千嘉世)

◆遠野ボランティアセンター便り

岩手沿岸部は、まだまだ暑い日が続いています。今月は青年ボランティア隊と西南学院大学の学生たちの活動の様子を紹介します。

青年ボランティア隊の皆さんは2日間、遠野まごころネットを通しての活動でしたが、初日はあいにくの雨模様で被災地の視察に終わりました。2日目は釜石の瓦礫撤去作業。釜石市の中でもっとも多くの犠牲者を出した防災センターのまわりの民家跡の瓦礫撤去で、それぞれが多くの思いを与えられたようでした。

西南学院大学の学生たちは、まごころネットを通しての活動が2日間と小槌第4仮設集会所でのお茶っこの会の手伝いをしてもらいました。



青年ボランティア隊14名(9月4日〜7日)



西南学院大学本学生12名(9月11日〜15日)

東日本大震災被災地支援委員会 原発課題班コラム 原子力発電所と放射能について 知っておきたいこと④ 「4号機」の問題について

事故を起こした東京電力福島第一原子力発電所の1号機から4号機の中で、4号機は特に注意を要する状況にあります。なぜなら、①格納容器の外に設置された貯蔵プールに使用済みと使用前の核燃料が入っているから、②それら核燃料の量が約1500本と多いから、③建物の健全性が危ぶまれているから、④にもかかわらず核燃料の取り出し作業は2013年12月から開始され、その間は基本的に状況が変わらないからです。

今年の8月17日にも経済産業省は東電に通達をしています。8月14日に発生した事故、「4号機タービン建屋内における滞留水移送ラインからの漏水に係る対応」についての指示です。経産省は配管の老朽化が主原因と推測し、東電に原因究明・再発防止・改善を促しています。

配管に関して最も危惧されているのは冷却システムです。貯蔵プールの水を絶えず循環させて核燃料を冷却していますが、この仮設配管は地震に耐えるのでしょうか。3.11の大地震のために地盤沈下が起こり、そのため4号機は傾いています。東電は「建築基準以内の傾きである」と言い、「貯蔵プールの真下に震度6強まで大丈夫な耐震補強を施した」と言います。しかし、想定以上の地震が起こったらどうなのでしょう。

専門家は4号機の冷却水がなくなり核燃料が露出し崩壊熱を出しながら「メルトダウン」した場合、先の原発事故の10倍の放射性物質が大気中に放出されると予測しています。その場合、首都圏を含む、原発から250キロ圏内の人々が避難すべきであると言われます。その時どのように行動すれば良いかを今のうちに考えておくことが必要です。そのために東日本大震災被災地支援委員会では「防災ガイド」を作成し、全国発送しますので参考にしてください。

原発課題班 濱野道雄

東日本大震災被災地支援募金にご協力ください すべての支援活動は、募金によって支えられています。

2012年度募金の目標額国内分で2000万円/4〜8月6,219,382円
また、海外の友好団体には用途を特定して要請する必要があり、おもに指定募金をいただいています。仮設住宅の談話室充実のための指定募金分としては12,764,626円です。非指定を合わせると、海外分合計14,085,023円です(2012年度)。
お祈りとご協力で心から感謝申し上げます。

送金先:郵便振替00140-9-180881宗教法人日本バプテスト連盟総務部

※「大震災被災地支援募金」と明記してください。※募金は極力、教会単位でご送金ください。海外からの募金は別口座になります。総務部までお問い合わせください。

◆祈りの課題◆

- 1.早急な原発事故の収束。4号機の燃料棒の取り出しがすみやかに行われるように。
- 2.被災地にある教会の支援活動が豊かに用いられていきますように。行き帰り、事故のないように。
- 3.仮設住宅から移転していく方々への対応に知恵が与えられるように。
- 4.被災地におられる方々の健康が支えられますように。
- 5.仮設住宅に住んでおられる方々の冬支度が十分に行われるように

(遠野ボランティアセンター 佐藤 浩)

お茶っこの会の時はいつも仮設の方々がお茶をこまめに飲んでくださるので、昼飯前に仮設の草刈りをさせていただきます。暑い中で汗を流しながら一所懸命草刈りをする学生たちの姿に、仮設のおじさんからアイスのうれしい差し入れもありました。仮設の方々は「草刈りをして一人や二人でできる範囲は限られている。学生たちが一斉にやってくれて、あつという間に綺麗になった」ととても喜んでいただきました。今回はいつもの楽しいお茶会前にもまた素敵な時が持てました。